

連載 あるといい「防除の知恵袋」(5)

—生産者の視点で「いつ・何を・どれだけ」—

JA 全農 営農販売企画部 TAC 推進課 課長

宗 和弘(そう かずひろ)

はじめに

前回は、露地栽培の代表選手であるキャベツを題材にして、主にチョウ目害虫の発生様相に合わせて防除関連情報の提供が行われていることを示した。今回は、露地野菜でも、キャベツより栽培期間が長期に渡るネギを題材に検討を進めてみたい。

I 作物別面談数

平成 25 年 4 月～26 年 3 月の 1 年間における TAC の防除に関する面談記録のうち、作物が特定できるものを抽出すると 7,762 件で、そのうち葉菜類は 2,906 件 37%であった。

そのうち、ネギは 829 件 11%とキャベツに次いで多かった(表-1)。

II ネギにおける時期別防除関連面談の傾向

1 月別防除関連面談件数

ネギの防除に関する面談件数を、地区別、月別に集計してみた(図-1)。

年間を通じて見ると、他の作物と同様に病虫害の発生様相とリンクしており、8月に大きなピークがあった。地区別では、栽培面積の多い、関東、東北の順に多くの面談が認められた。

面談内容別の分析は後述するが、「速やかな防除」を促す面談は7月、8月に多かった。

一方で、他作物で農閑期に多かった「防除関連資料」の配布などは年間通じて行われており、ネギの栽培期間が長いことなどが影響しているのではないかとと思われる。

2 病虫害別防除関連面談の傾向

面談記録のうち、対象病虫害が明らかになっている面談を仕分けてみると、病害では、べと病が 59 件 44%、軟腐病が 32 件 24%、白絹病が 16 件 12%と多かった

(図-2)。

一方害虫では、ネギアザミウマが 111 件 67%と圧倒的に多く、2 番目のアブラムシ 14 件 9%とは大きく離されていた(図-3)。

他の作物と同様に、商品価値に直接大きな影響を与える病虫害に生産者の関心が高いことがうかがわれた。

3 面談内容の再整理

これまで計 4 回にわたり、TAC の面談記録の分析を試みてきたが、面談内容の分類の仕方に統一感がなかったことに気付いた。これは、できるだけ面談者の表現に近いところでの整理を心がけたためではあるが、全作物を通して分析する際に不都合である。

表-1 防除に関する面談抽出対象作物一覧

類名	件数	作物名	件数
果菜類	4,535	トマト	2,532
		キュウリ	456
		ナス	548
		ピーマン	188
		イチゴ	811
葉菜類	2,906	キャベツ	1,005
		ハクサイ	276
		レタス	240
		ホウレンソウ	68
		シュンギク	65
		オオバ	110
		コマツナ	32
		ネギ	829
		タマネギ	281
根菜類	228	ダイコン	65
		ニンジン	40
		ジャガイモ	70
		サツマイモ	53
		トウモロコシ	93
その他	93		
計	7,762	計	7,762

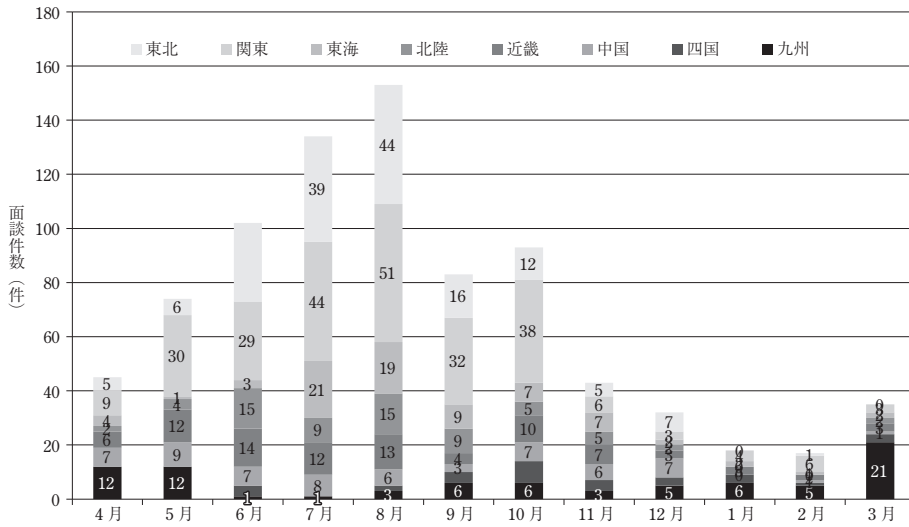


図-1 ネギ防除に関する面談数の地区別・時期別推移

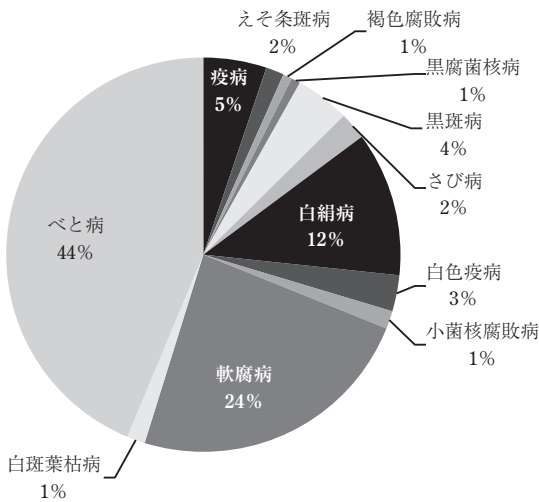


図-2 病害別面談割合

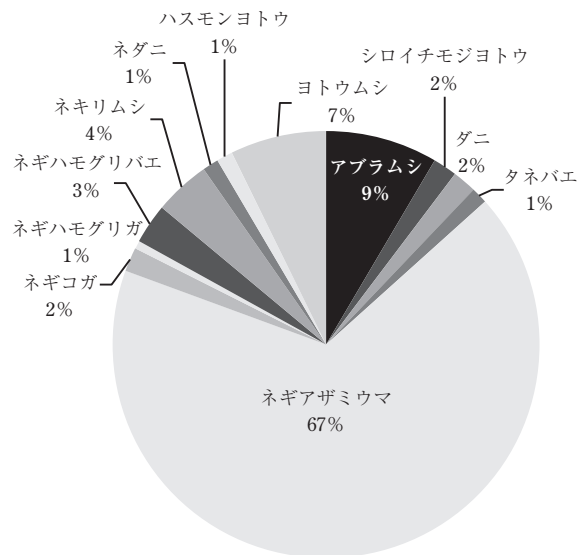


図-3 害虫別面談割合

そこで、今回、面談内容分類の再整理を試みた(表-2)。

防除に関する面談は、立毛中の発生状況や防除状況を確認しながら対応していく性格のものと、緊急性はないが、よりよい防除を実施するための防除関連資料の説明などの2つに大別され、面談内容別に必要とされる資料をイメージできるような分類を試みた。

やはり、立毛中は病害虫被害を最小限に止めるための面談が多く見られ、その面談については、「緊急防除薬剤提案」や「防除喚起」と整理し、面談を緊急度に応じて分類できるようにした。

まだ、重複するものもあると思うが、以後この分類

で面談内容の分析を行っていきたい。

4 ネギにおける面談内目的の特徴

前述の内容で分類を試みたところ、ネギでは、実際に圃場に行って、発生状況や防除状況を確認して防除対策などを提案する「発生状況・防除状況確認」が452件54%と過半を占めた。ついで、「防除全般」が272件33%であるが、これには防除薬剤の特徴や効率的な防除法解説資料等の配布が含まれるので、ネギの場合は9割近い比率で、実防除に結びつく面談が行われていること

表-2 TAC の担い手訪問時における面談内容分類

訪問目的	面談内容	面談内容の概要
発生状況・防除状況確認	緊急防除薬剤提案	被害軽減のための緊急防除提案（薬剤名指定）
	防除喚起	すぐに散布が必要な場合の防除喚起 防除対策提案や発生予察報情報、防除暦、気象状況、発生状況を踏まえた適期防除の喚起
	防除対策提案	今作の発生状況・防除状況に応じた防除法・方針等の提案
	防除相談	発生状況等の聞き取り、圃場・作物の状態確認の実施、生産者からの防除相談対応
	防除実施状況確認	適期防除が実施されているか、指導内容が履行されているか確認
	防除効果・評価確認	使用された防除法の防除効果や使用者の評価の確認
	徹底防除依頼	発生中または多発生が予想される病害虫の被害軽減を目的とした徹底防除の呼びかけ
	防除関連資材対応	防除に必要な防除機など防除関連資材に関する対応
防除全般	防除関連資料配布・説明	防除関連資料：防除暦、防除指針、指導機関指導内容、防除薬剤一覧表、防除薬剤特性比較表、防除啓発資料、防除の基礎等
	日誌配布・記帳指導	栽培日誌・防除日誌の配布とその書き方指導
	安全使用	ドリフト対策、食の安全確保対策、労働安全等農薬の安全使用推進・相談対応
	農薬受注・店頭販売	生産者からの発注受付、JA 窓口での店頭販売
	農薬配達	注文品の配達とともに、使い方説明
作物生育状況確認	栽培指導	生育状況を踏まえた良品生産・生産量確保のための栽培技術指導、出荷規格説明
	災害被害状況確認	暴風雪、豪雨、台風等災害被害の確認とその対処について相談・提案
	出荷時期・量確認	出荷時期確認
経営相談	経営方針相談	今後の作付計画など経営方針を聴き取り、相談の受付
意見・要望収集	意見・要望聞き取り	JA に対する各種意見・要望の聞き取り
情報伝達	各種情報の提供	各種申請情報、展示会等開催情報、各種キャンペーン案内、講習会開催案内等

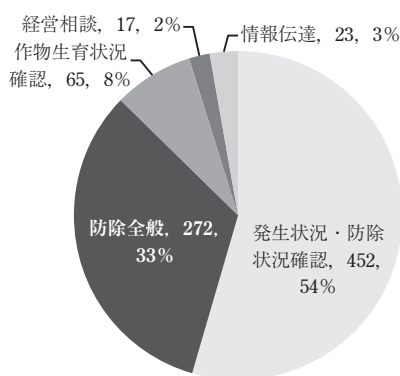


図-4 面談目的別割合

になる（図-4）。

このような状況を見ると、面談に持っていく資料の良し悪しや、面談者の資質が防除の成否に大きく影響するものと考えられた。

5 ネギ防除に関する面談の時期別・面談内容別推移

図-5に時期別・面談内容別の面談件数推移を示した。

面談内容で最も多かったのは、「防除対策提案」で、全体と同様7月、8月にピークがあるものの、ほぼ年間を通じて多く行われていた。これは、日々変化する発生状況や防除状況に速やかに対応するためであり、安定生産のためには不可欠なものであろう。

次に多かったのは、「防除関連資料配布・説明」であるが、立毛中か否かの違いのみで、前述の「防除対策提案」と密接に関係している面談であると考えている。これは、農閑期などで、じっくりと次期の防除を考える時間があるときに、防除資料を生産者に提示することで、防除の腕をあげてもらおう狙いがある。このようなとき

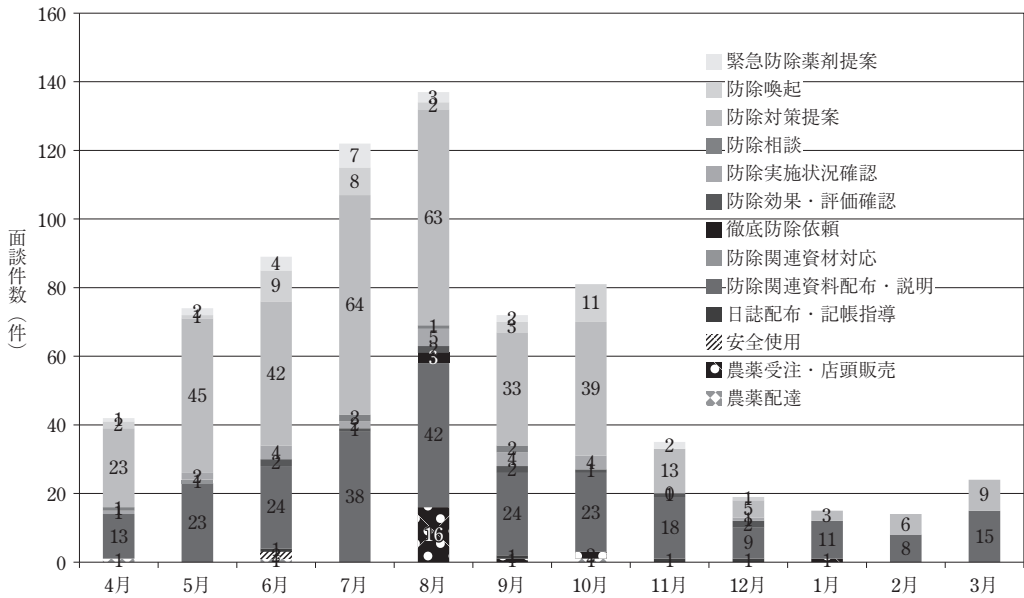


図-5 ネギの防除に関する面談の時期別・面談内容別推移

は、じっくり話を聞いてもらえる確率が高まるようで、資料の提供に感謝の言葉が添えられていることが多い。逆にいうと、この時期にいきなり「わかりやすく、よい資料」を提供できるかどうか防除テクニックの向上に大きな影響を与えるものと考えられる。

6 面談例から見た対応と課題

以上、他作物と同様な分析を行ったが、今回は少し新たな検討を追加して、実際の面談内容に即し、それに答えるために「あると良い資料とは？」を考えてみたい。

面談記録 1：

「ネギの根元が黒くなっているの、農薬で防除したいが何がいいのか尋ねられた。病害虫の診断写真を見せたところ、アブラムシの被害と断定できたため、A剤（有機リン）を奨めました。」

この面談内容を見ると、生産者への指導の根拠になっているのが、「診断写真」というものである。発生している写真を見比べながら、一番近いものを探っているのだが。決め手となる写真は、よりよく特徴を捉え、わかりやすいものが求められるであろう。

また、対策の選択では有機リン剤をお奨めしており、一見問題なさそうに見えるが、ネギの栽培ステージやそれまでの農薬散布履歴とその効果等によっては、うまく効果が出ないことも考えられる。実際に薬剤を指導する場合は、このようなことも加えて判断すべきだと思う

が、この面談内容だけではそれがなされたかは明らかでない。そこで、現場での指導内容の手引きとして、このようなことも加味した参考資料が必要なのではないだろうか。

面談記録 2：

「ねぎにべと病が発生している。JAに防除薬を確認してA水和剤を散布したが、散布後すぐに降雨があり、現在見たところでは病状が止まっていない状況。関係部に確認のうえ防除薬剤を連絡することとした。」

この面談では、面談者は防除の状況を聴き取り、その内容をJAに持ち帰り、専門の指導者に確認のうえ、回答を行うことにしている。このようなケースでの回答手法としては、それまでの散布履歴を確認することと、地域における耐性菌の発生状況を加味して対応する必要があるが、どうも今まで何を散布していたかを確認した形跡がない。そこで、このような場合には、散布履歴も忘れずに確認しておくことを注意喚起するような「マニュアル」があるとよいように考えている。

ま と め

今回、ネギを題材に、その防除に関する面談情報を整理・解析してみた。

ネギの場合もキャベツと同様、葉そのものが商品であるため、葉を食害する害虫対策を主体とした面談が多か

ったことがわかった。防除を提案する場合、今まさに被害を受けようというときに適切な防除指導ができなければ商品価値を失いかねないからであろう。防除の知恵袋を考える場合、この点に着眼した知恵（情報）の蓄積も行われなければならないと思う。

これまでに水稻、果菜（トマト）、葉菜（キャベツ）、茎葉菜（ネギ）を題材に分析したが、「果樹もお願い」

との声をいただいたので、次回は、果樹で、同様の整理・分析を行いたい。また、今回新たに行った「面談記録を元にした解析」は、本稿の論旨展開に役立ちそうなので、果樹が終わった時点で他の作物の面談記録も加えて整理し、いよいよあるといい「防除の知恵袋」像を明らかにすることを試みてみたい。

第二刷 農薬と食の安全・信頼

梅津 憲治 著

—Q & A から農薬と食の安全性を
科学的に考える—

A5判 本文282頁、価格 2,800 円(税別)



本書は農薬が有する多面的な側面のうち、主に「人の健康とのかかわり」に焦点を当て、農薬や残留農薬の人の健康に対する影響について科学的に分かりやすく解説しています。著者が取り組んできた農薬に関する講演や講義で、実際に一般消費者や学生から寄せられた農薬の安全性に対する素朴な質問と著者の答え（Q & A）を各章のはじめに置き、それに関連する本文を読み進めていただけるように構成してあります。農薬はどのような安全性試験を経て農薬登録され、適正使用されているのかなどの基本的な内容から、残留農薬のヒトに対する健康影響やリスクコミュニケーションの取り組みまでを詳述。農薬の研究開発から試験研究機関、技術普及、流通・卸、農業生産法人など植物防疫の関係者にとって必携の一冊です。

一般社団法人 日本植物防疫協会 支援事業部 出版担当

〒114-0015 東京都北区中里2-28-10

TEL 03-5980-2183, FAX 03-5980-6753

e-mail : order@jppa.or.jp

振替 00110-7-177867 番